社会福祉法人
名東福祉会
機関誌ワークス

WORKS

Empower & Energize

No. 97

2004年7月号

上山木工サイト

特集
名東福祉会のナイトケア事業本格スタート

地域福祉時代の入所施設の役割
　メイトウ・ワークス所長　小島一郎

ーレジデンス日進の半年間ー
　レジデンス日進所長　山田達巳

動き出したサービスサイト　WORKS 編集部

名東福祉会ニュース
　ショートステイのご案内
　「ハートフルアクト日進」をご利用下さい

木工製品の試作品

レジデンス日進の半年間

レジデンス日進所長　山田達巳

レジデンス日進がオープンして約半年が経過しました。環境の変化による生活リズムの不安定さも徐々に解消されつつあります。ここで少し、これまでの様子を思いだしながら、「これが入所施設なんだ」と感じさせられたことを紹介してみたいと思います。

近くの病院へ

精神科、皮膚科、眼科、歯科を中心に受診しています。必要不可欠なケースがほとんどですが、職員の注意を引くためや、他の人が通院するのを真似て、意図的に痛み等を訴えられる場合もあります。しかし、疑うことではないので、「とりあえず行ってみましょう」となると、ほぼ毎日誰かが受診しています。

病院に行くことは普段の生活の中では特別なことですが、通院が日中プログラムの1つになっているかのようでもあります。

容態の急変

一日おきに透析をされている方が、肺炎で入院をし、急性肺炎で亡くなられました。

透析は専門病院から送迎があり、施設の負担はほとんどなく、入所1カ月くらいまではとても順調な施設利用でした。その後、血圧が高い状態が続き、入所2カ月後に、鼻血が止まらず2度続けて救急車で総合病院に行きました。血圧が200を超え、血も止まらない状態に施設対応の限界を感じ、入院を希望しましたが受け入れてもらえませんでした。役所にも相談しましたが、役所から入院させることもできず、結局、施設で様子を見ることになりました。容態の変化への不安から職員が1人付き添う状態が数日間続きました。呼吸が苦しそうになったのがきっかけで、再度総合病院に行った時には即入院となり、翌日のお昼前に亡くなられました。呼吸停止の知らせを聞いて家族の方が見えるまで、職員が一晩病院に付き添いました。

夜間に救急車に同乗する職員、交替で自宅から駆けつける職員、夜勤職員の増員等、必要に迫られた対応はするものの、常に「このまま死んでしまうのでは・・・」という先の見えない不安感に襲われる職員のストレスは相当なものでした。

亡くなってしまったという結果だけから判断すると、環境の変化で本人が体調を崩してしまったのではないのだろうか？レジデンス日進での生活が体力的に負担であったのではないだろうか？などと考えないではいられませんでした。

状況が大きく変化してから亡くなるまでの約一週間は、職員にとって、肉体的、精神的疲労感も麻痺してしまったような、現実ではなかったのでは・・・と錯覚してしまうような一週間でした。

帰省の影響

帰省は、多くの人がとても楽しみにしています。週末であったり、平日であったり、家族の受け入れ状況に合わせて帰省されます。また、家族の方がレジデンス日進に会いに見えるといったケースもあります。

当然のことですが、帰省できる人がいる一方で、まったくと言っていいほどできない人もいます。特に問題となるのが、家族のいる家庭があっても諸事情で帰省できない人たちや、本人自身、家に帰っても不安定になり、長くは居られないという自覚があっても、やはり家に帰りたいという人たちです。その人たちは、他の利用者が帰省する姿を見れば見るほど帰省したいという気持ちが強くなり、落ち込んで元気をなくしてしまったり、他人に対して攻撃的になったりします。

帰省状況により、ユニットを分けるといった環境調整はおこないますが、帰り

たいという気持ちと帰れないという現実の調整には限界があります。

利用者を背負う

絶対的に信頼でき、依存できる職員を探して、その目標が達成されず、病院に入ることになってしまった人が2名います。男女1名ずつですが、女性の方は、職員への恋愛感情と重なってしまい、より複雑になってしまいました。

2人が求めたものは、信頼、依存のレベルを越えて、独占、所有といったもので、話を聞く、一緒に何かをすることでは満足できなくなっていきました。そこまでになってしまうと施設が提供するサービスではなくなり、職員個人が2人を背負っていくかどうかという話になってしまいます。それをしないとなると、本人の要求は満たされず、不満が増大していきます。

思ったような展開にならないと、一人の方は、夜間の無断外出、拒薬、拒食、手首を切る、紐を首に巻く、ベランダから外にぶら下がるといった行動に出ます。この行動による他の利用者への直接的危険性はありませんが、穏やかでない雰囲気は不安にさせてしまいます。それ以上に、本人の生命にもかかわってきます。

もう一人の方は、職員、利用者の言動・行動へのクレームを出されます。そのクレームを市役所に訴えに行く、大声で怒鳴る、物を投げる・壊す、人を叩く・蹴る・噛む、人前で服を脱ぐといった行動に出ます。この行動は他の利用者に相当な恐怖感を与えてしまい、直接的な影響も大きいといえます。

どちらのケースも職員が接点を持たないで解決することはありません。場合によっては複数の職員で対応することにもなります。結局、本人の要求は直接的な行動に出ることで、表面的には満たされたことになり、後はこの繰り返しです。その都度、職員を配置し、場合によっては夜勤職員を増員したり、精神科の医師に相談したりして対応してきましたが、一人の方は3カ月、もう一人の方は1カ月ほどで施設対応の限界がきました。受診をした結果、入院ということになりました。

私たちのなすべきことはせめて不快な空間ではなくすること・・・

勤務スタイルの変化

職員の環境の変化にも少し触れておきたいと思います。通所施設から異動してきた職員にとっては、月曜から金曜日までの日中に働き、土・日曜日は休みという生活から、土・日曜日が必ず休日であることもなくなり、夜勤という帰宅しない状況も生まれてきます。このような勤務形態がスタートし、継続していくことが入所施設で働くことであると異動後まもなく実感し、次にその状況を受け入れることになります。さらに、目前の課題に1つずつ取り組んでいくうちに曜日の感覚がなくなっていきます。

この感覚は、利用者にも影響しそうで、あまり肯定しないほうがいい感覚のような気がします。

レジデンス日進という場所

自宅を中心に家族と生活してきた人にとっては、突然の施設利用は非日常的なイベント体験です。ところが、そんな特別な生活体験も、連続することによって普通の環境となり、それがレジデンス日進での生活ということになります。

実際に稼働して気づいたことは、もしかするとレジデンス日進とは、これまで特別であったと思われる状況が次々とそうでなくなっていくところであり、当たり前であったことが簡単ではなくなるという場所なのではないでしょうか。そう考えると、実は、なかなか理解することが困難な、とても暮らしにくい場所なのかもしれません。

利用者に満足していただけるサービス提供はなかなか難しい作業のようです。もし、レジデンス日進が、利用者にとって快適な空間に成りえないのであれば、私たちのなすべきことは、せめて不快な場所にならないように努めることです。「こんな感じで本当にいいのだろうか・・・」と思いながらの生活支援がまだまだ続きそうです。

地域福祉時代の入所施設の役割

メイトウ・ワークス所長　小島　一郎

「入所施設解体」の潮流

「入所施設を解体し、障害者を地域へ」という論調が強い昨今である。改革派と呼ばれる知事の方針表明は、新聞の一面を飾る。確かに入所施設はその閉鎖性ゆえ、好ましくない歴史をもっているし、利用定員規模をいくら減らしても、利用者は集団生活による制約からは逃れられない。よって、より自由度が高く、本人好みの生活を設計しやすいと思われる「地域へ」という流れが主流になりつつある。自由度の高さという点に絞って言えば、施設よりグループホームであろうし、家庭や一人暮らしということになるであろう。

しかし一方で、障害をもった方々には様々な個別の生活課題が存在する。例えば、名東福祉会の利用者の場合、ＡＤＬの自立の程度や社会生活上の困難は、実に多様であることは想像に難くない。食事や排泄の度にマンツーマンでの介助が必要な方もいれば、「身の回りのことは一通り大丈夫だけど、お金のことが分からなくて、つい遣い過ぎちゃう」という方もいる。上手くコミュニケーションがとれなくてパニックを起こす方も、夜眠れずに話し続ける方も、てんかん発作のために怪我をしやすい方も、車椅子による移動介助が必要な方も。法人利用者の約８割が支援費上の程度区分でＡ判定であるという数字から考えても、そのひとつひとつがシビアなものばかりである。このような、利用者ひとりひとりが抱える多様な生活課題を考えるとき、「入所施設解体」という言葉に、私は少なからず困惑する。本当に施設はそんなに悪いものなのだろうか。グループホームでも家庭でも果たせない、施設が担うべき役割があるのではないか。

入所施設と地域福祉

老婆心から述べておくが、私は当然ながら、障害者が地域で暮らすことに消極的な立場をとっている訳ではない。先に触れたように、自由度の高さ＝本人好みの生活設計の可能性という点では、断然、施設は劣ってしまう。ただ、例えば強度の行動障害のため、家庭やホームといった通常の生活空間での暮らしに馴染まない方や、ホームでの生活に挑戦してみた結果上手くいかず、もう一度生活パターンを組み立て直したいような場合、家庭よりもグループホームよりも、施設こそがその専門性を発揮できるということが考えられはしないだろうか。また、緊急時やレスパイトでショートステイを利用するような場合、一定以上のサービス量を安定して供給できるのは、やはり施設ではないだろうか。今後、飛躍的な増加が期待されながらも、どうしても支援体制が手薄になりがちなグループホームを、様々な形でバックアップするのは施設ではないだろうか。要するに、入所施設でこそ果たすことができる支援のあり方や地域生活を支えるための役割というものが存在すると私は考えるのであるが、いかがであろうか。

〈施設〉と〈地域福祉〉は相反するものではなく、むしろ地域福祉が進むほど〈地域センター〉としての役割が施設に求められていく側面もあるといえるのである。

確かに、「施設解体」という言葉には、障害者の権利拡大を象徴するようなインパクトがあり、それはそれでよいとも言えるのであるが、センセーショナリズムを感じずにはいられないのも事実である。徒に、入所施設の建設を続ける必要がないことは明らかとしても、これまでの障害者福祉を担ってきた歴史の中で培った専門性は貴重で、今後の福祉にこれを生かさない手はない。

これからの入所施設の役割

結局、施設―グループホーム―自宅

(家族・一人暮らし)という多様な暮らしが用意されることが、まず必要なのだろう。そして、〈そのとき〉×〈そのひと〉の状況に応じて、選択的にサービスを受けることができなければならない。暮らしの場に優劣をつけることはあまり意味がなく、あるのは適不適といったところか。場合によっては、医療機関での暮らしが〈そのとき〉×〈そのひと〉には適していることだって大いにあり得る。本人好みの暮らしの実現という目標を達成する過程においては、失敗や不調は付きものであり、それを乗り越えるための支援には、様々な専門的な判断や特別な支援期間の設定も不可欠なのである。

それぞれの地域で点在するグループホームや、障害をもった方々の家庭や、医療機関が常にネットワークで結ばれている。そんな中でセンター的な役割をもち、〈そのとき〉×〈そのひと〉に適した暮らしを応援することができるとすれば、「入所施設」の存在意義もポジティブに捉え直すことができる。知的障害をもった方々の生活支援の最前線に身を置く者として、「入所施設解体」への困惑は決して老婆心だけではないと考えるのであるが。

「ハートフルアクト日進」をご利用下さい

知的障害者デイサービス「ハートフルアクト日進」がスタートしています。レジデンス日進に併設されており、作業プログラムや文化活動の他、入浴等のオプションサービスまで用意されています。月曜日から金曜日・午前9時から午後4時までが利用時間となります。

ご利用を希望される方は、

TEL (052) 805-1003　FAX (052) 805-1004　担当：長谷まで

ショートステイのご案内

「レジデンス日進」のショートステイの利用が始まっています。緊急時に限らず、レスパイト的な利用ももちろん可能ですので、日程のご相談などお気軽にお問い合わせ下さい。利用契約の済んでいない方は、まずそちらの手続きをお願いします。

お問い合わせ

TEL (052) 805-1003　FAX (052) 805-1004
担当：山田・事務センター

動き出したサービスサイト

WORKS 編集部

名東福祉会には、「サービスサイト」を地域に展開していこうという構想があります。これは、5～10名程度の利用規模の店舗や工房を地域に点在させることにより、従来の通所施設よりも地域密着度やプログラムの専門性の高いサービスを提供することを目的としています。こういう言い回しをすると何だか難しいもののように思われるかもしれませんが、要は、どこにでもある小さな○○屋さんを増やしていきたいということです。街なかにこじんまりとあれば、お客さんや顔なじみの方の出入りが頻繁になるでしょうし、特定の商売や仕事をする訳ですから、それを得意とする利用者や職員が携わります。ひょっとしてひょっとすると、結構な売上を実現してしまうかもしれません。もちろん、各施設が随時バックアップしますので、孤立する心配も無用です。

サービスサイトが展開していくと、入所施設利用者の日中活動先となり、生活の場と活動の場の分離が可能なばかりか、通所施設利用者の選択肢も広がります。法人全体の資源ですので、利用範囲が広ければ広いほどよいと思います。

今年度に入り、すでにスタートしたサイト、開業を目指す店舗等がありますので、ここではその紹介を・・・

■木工サイト（日進市浅田町上ノ山）

第1号のサービスサイトとして4月にスタートしました。木製小物を中心に製造を開始しています。現在はサイトでの加工品をレジデンスに運んで、利用者による仕上げ作業を行っています。敷地内の別棟作業室の利用が始まれば、本格的に木工作業や軽作業を展開することができます。（表紙写真）

■喫茶「ハッピーロード」（千種区今池）

名東福祉会が扱う製品の店舗として、また誰もが気軽に立ち寄ることができる憩いの場として、4月24日にオープンしました。お客さんとしてはもちろんのこと、接客業に憧れる利用者の希望が叶うチャンスともいえます。

■製パンサイト

天白ワークスで開所以来提供してきた製パン作業ですが、独立店舗化することを目指しています。店舗を構える以上、売上の向上を意識した就労型サイトとして展開します。「焼きたてのおいしいパン」をより多くの方々に味わっていただくため、そして、そこで働く利用者の可能性を限りなく膨らませるため、準備を進めています。ご支援の程、よろしくお願いします。

ご寄付ありがとうございました　（平成15年9月～平成16年6月）

名東福祉会合同家族会様
野﨑久美子様
山口　利隆様
渡辺　秀子様
後藤　信様
名東区手をつなぐ育成会様
社会福祉法人観寿々会後援会様
伊藤　和幸様
勢子坊二丁目町内会様
後藤　康夫様
林　輝夫様
はまなす家族会様
名東ライオンズクラブ様
メイトウ・ワークス家族会様
天白ワークス家族会様
加藤　康彦様
㈱アイコーメディカル様
田中　誠様
丹羽スミ子様
沼波久實子様
高橋　尚子様
社会福祉法人あさみどりの会様
愛知県知的障害者福祉協会様
愛知県知的障害者育成会様
社会福祉法人名古屋手をつなぐ育成会様
長谷川了示様
日進市障害者団体連絡会様
峯尾　宏様
祖父江信也様
日進市聴覚障害者福祉協会様
日進市手をつなぐ育成会様
竹内　信枝様
日進きまもり会　近藤　博恒様
社会福祉法人　観寿々会様
鈴木　圭子様
岡部　昭子様
佐野　安男様
小出悠紀子様
林　輝夫様
高橋　主税様
ブルネエズ㈱様
NPO法人　フロール会様
㈱ＥＭ　ＭＡＸ様
㈱イシモク様
養楽荘長　桑原　正勝様
ひかり学園　園長　臼井　章雄様
泰山寮長　峯山　豊様
福寿荘施設長　松永　隆夫様
無門学園　園長　野澤　恭子様
小本育成苑様
シンシア豊川施設長　桑名　美幸様
サンホーム豊田　高廣　徹様
ひまわりの風施設長　上瀧　清様
社会福祉法人あいち清光会　サンフレンド様
よつ葉の家施設長　鈴木美知子様
くわの実福祉会様
自由の杜　鎌田　博幸様
名古屋市障害者雇用支援センター所長　宮崎潔様
手仕事の館てふてふ　久米真理子様
社会福祉法人　飛翔様
若林　怜子様
青沼　こう様
岩田三千栄様
高木　トシ様
河津　光子様
川本　淳一様
神谷ミサ子様
北原　政子様
木谷　厚雄様
児玉　俊子様
近藤加津子様
武田　信夫様
武田ちよみ様
前田　苗子様
森　正次様
愛知中小企業家同友会様
日進市社会福祉協議会様
名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会様
あじま作業所　所長　酒井鋤久様
名古屋キリスト教社会館　加藤峯子様
社会福祉法人大森福祉会　理事　酒井光雄様
山吹ワーキングセンター様
水野　保子様
伊藤　芳雄様
佐藤　正代様
あゆみ園協力会様
近藤　桂様
社会福祉法人聖清会ハルナ施設長　吉橋　洋子様　氷室美紀子様
名東福祉会合同家族会様

名東福祉会
ニュースサイト
２００４

寄付者名簿（続き）

名東ライオンズクラブ様
あゆみ園園長
川口恭子様
市川　博之様
天白ワークス家族会様
土の子一同様
ばれっと様
名東福祉会後援会様
加藤さち子様
大内　伸元様
手塚　直樹様
山本　明子様
福田　光子様
田中　紀男様
後藤　幸子様
名東福祉会合同家族会様　加藤　信子様
岡部　昭子様
吉田　征一様
小出悠紀子様
鳩岡作業所家族会様
相羽　美久様
井口　和義様
伊藤　健様
伊藤　時義様
瓜生　廣司様
鈴木　光夫様
鈴木枝美子様
林　輝夫様
日高　勉様
松原日出男様
山口　慶子様
浅井　康夫様
中埜須美朗様
麦の会様
渡辺　寿枝様
小出悠紀子様
名東福祉会後援会様
㈲太陽福祉事業様
吉田　征一様
長谷川捷次様
加藤　康彦様
加藤冨美子様
林　君子様
上ノ山野菜作り同好会一同様
日進西学童保育所様
北川　史郎様
吉田　征一様
後藤　良昭様
㈱友邦設計様
倉地　利光様
日進西学童保育所様
渡辺　秀子様
若水授産所保護者会様
松井　傅様
永田様
荒井様
鈴木様
坂野様
井口　和義様
中村　千秋様
日進西学童保育所様
愛知中小企業家同友会様
平針授産所保護者会様

編　集　室

▼WORKSの編集部のメンバー構成が変わりました。今回はその第１号となります。これまで、理念的な記事が中心でしたが、これからはできるだけ現場の状況をお伝えできるような「ドロ臭い」記事構成に努めて行きたいと考えています。▼レジデンス日進の現場からはレジデンス日進がオープンして半年間の感想を山田所長から報告していただきました。ややネガティブなタッチの文章となりましたが、これも入所施設が抱える偽らざる課題なのではないかと思います。▼レジデンス日進は「最後の入所施設」といわれるくらい、新規の知的障害者施設が建設されることが難しくなってきています。そのような状況にありながら私たちは入所施設を否定するのではなく、新しい施設の機能をとらえなおしていくことが必要だと思います。メイトウ・ワークス所長の小島さんには入所施設をポジティブにとらることの重要性について指摘していただきました。▼いずれにしても、知的障害者の生活の質を高めるために人的、財政的支援は重要です。社会のご理解を賜りますようお願い申し上げます。（加藤久和）

●社会福祉法人　名東福祉会
〒465-0055　名古屋市名東区勢子坊2-1303
●メイトウ・ワークス
〒465-0055　名古屋市名東区勢子坊2-1303
TEL 052(702)2863 FAX 052(701)2079
●天白ワークス
〒468-0023 名古屋市天白区御前場町327
TEL 052(804)5487 FAX 052(804)5416
●デイケア　はまなす
〒465-0054 名古屋市名東区高針台1-911
TEL 052(704)7551 FAX 052(704)7552
●レジデンス日進・ハートフルアクト日進
〒470-0124 愛知県日進市上納58-4
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004
●こいけホーム
〒465-0047 名古屋市名東区小池町468-1
TEL 052(777)8385 FAX 052(777)8385
●天白ホーム
〒468-0021 名古屋市天白区平針字大根ヶ越141-3
TEL 052(807)1578 FAX 052(807)1578
●農耕サイト
〒470-0124 愛知県日進市上の山